

「支持率に一喜一憂しない」国民の声を聞かないってこと？

またまた「松尾貴史のちょっと違和感」（毎日 11 月 13 日夕刊）を紹介したくなった。朝日 15 日朝刊によると、岸田内閣支持率は最低 37%に落ち込み、初めて 4 割を切った。NHK の世論調査でも同様の傾向だった。ちょっと違和感が現実味を帯びてきた。

河野太郎デジタル相が、テレビの情報バラエティー番組で「次の選挙まで時間がある。支持率で一喜一憂しないのがいいと思う」などと述べた。取りも直さず「国民が文句を言っても取り合う必要も、声を聞く必要もない。しばらくはやりたい放題やらせてもらえばいい」という意味をはらんではいないか。

河野氏は「短期的には苦しいけど、長期的には国のためになることもある」「正しい政策を打っていれば、その効果が出てくる。その効果を待つ」という文脈で言ったのだが、「短期的」どころではなく、ここまで国力が弱くなって国民も疲弊している中で、どんな政策の効果をじっくり期待すればいいのだろうか。選挙までは時間があっても、国民の生活は待った無しのぎりぎりのところにある。

「国のために」の国とは、統治機構としての国なのか、国民のことなのか。おそらくは前者を指しているのだろうと推察する。「しばらくは選挙がないから」とは言っても、時間をかけてもいいということではない。こんなことを言いつつ、内閣支持率がジリ貧化している岸田文雄首相をじっくり傍観して、自民党内に自分への待望論が膨らむのを期待しているようにしか見えないが。

岸田内閣は「強制ではない」と言っていたマイナンバーカードについて、現行の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体化させるという天下の愚策を進めようとしている。「マイナンバーカードを持ってない人たちはどうするのか」と突っ込まれると「その代替になる仕組みを作る」のだという。それならば保険証廃止によって余計な仕組みや組織を作って無駄金を使わずに、今の制度を継続すればいいだけのことだろう。

一方、自民党は、山際大志郎前経済再生担当相の辞任から 4 日後に山際氏を党新型コロナウイルス等感染症対策本部長に起用するという、全くもって国民をなめ切った行為をやらかした。山際氏並みに国民も記憶力ないと見くびっているのか、それとも党内ばかり気を使って国民がどう思うかなど知ったことではないということなのか。

そして、経済的に弱っている人に大きな負担がかかる消費税について、この経済状態なのに増税しようという議論を受け入れているのは狂気の沙汰であるとしか言いようがない。これでも内閣を支持する人が 3 割もいることに驚かされる。

権力者の言動に「一怒一憂」している国民が増えていることに、「一憂」のかけらさえ持たない政権は、一刻も早く終わっていただきたい。

(2022年11月18日)